

塗り壁・畳・寝具まで自然素材

電話・ネット・TV・冷蔵庫なし

エコでおもてなし

北欧のエコマーク 銀座の宿ゲット

ゴミを出さない、水を汚さない……。環境に優しい旅館「銀座 吉水」(中央区銀座3丁目)が、デンマーク発祥の環境保護認証「グリーンキー」を取得した。世界の宿泊施設を対象にしたエコマークで、日本では第1号だ。おかみの中川誼美さん(66)は「今回の受賞で業界のあり方に一石を投じられれば」と意気込む。

(杉本宏)

客室数13室の小さな「和の宿」は、歌舞伎座の裏にひっそりとたたずむ。地上9階地下1階建てのビルで、うっかりすると、そこが旅館だとは気づかない。

開業して約6年、客の7割が外国人だ。従業員も英語が出来る。昨年9月には、英主要紙デイリーテレグラフなどのインターネット版で、マンダリンオリエンタル東京(日本橋)やザ・リッツ・カールトン東京(六本木)とともに

「東京のトップ5のホテル」として紹介された。料金(朝食付き、税込み)は、1人1泊1万6000円〜1万7千円。

環境への配慮は徹底的だ。珪藻土の塗り壁に、床は竹の集成材。無農薬の蘭草で編まれた畳、寝具はオーガニックコットン。全客室に電話やインターネット、テレビ、冷蔵庫がない。省エネだけでなく、連れと静かな部屋で話を弾ませる「仕掛け」でもある。

「ゴミとなる歯ブラシやひげそり、シャンプーなどアメニティーも置かない。仲居もおらず、布団は自分で敷く。食事は無農薬の素材を使った家庭料理。客の「胃袋」を常に観察し、食べ残しのない適量を提供する。

「ここまで環境にこだわっているなら」と、知人から申請を勧められて申請。先月半ば、80項目の認証基準をクリアしてグリーンキーの「お墨付き」を得た。

「ひと昔前の日本の暮らし

グリーンキーの認定書を見せる中川誼美さん(中央区銀座3丁目の「銀座 吉水」)

グリーンキー デンマークに本部を置く国際NGO、環境教育基金が実施する認証制度。フランスやイタリア、チニアなど13カ国に広がり、これまでに約640施設が認証された。日本では、長野県と山形県の宿泊施設も第1号を同時に取得。今秋に第2号の申請を受け付ける。

にこだわってきただけ。でも、それが欧州で認められてうれしい」と喜びをかみしめる。

墨田区の下町で生まれ育った。70年に結婚して夫と米ニューヨーク州のウッドストックで1年暮らし、環境保護や自然の大切さに目覚めた。当時はロック音楽のメッカで、ヒッピーのたまり場。「今でいうエコ、ロハス、ベジタリアン(菜食主義者)……。何でもあり。畑で農作業もした」

帰国後、夫と繊維メーカーや印刷会社を経営、2人の子どもの子育ても終わった55歳のとき、京都の円山公園内で初めて旅館を経営、同じ環境重視のコンセプトで予想外の大繁盛。

だが、今は「き母親から「自分の考えを全うするには、環境とは無縁の大都会のと真ん中で実験すべき」と言われ、2軒目を銀座に出した。

「都会でもここまで出来るのよ、と言いたい」と中川さんの。今回の受賞を機に日本でもエコ重視の施設が増えることを願っている。利用客にも「不便と思うかもしれないが、現代の『便利さ』に慣れて疲れた体を癒やしてみたい」と呼びかけている。